

郷川におけるトンボの幼虫

不破光大・齋藤真里・稲村 修
魚津水族館 〒937-0857 富山県魚津市三ヶ1390

Dragonfly larvae collected from the Gogawa River, Toyama Prefecture, central Japan

Mitsuhiro Fuwa, Mari Saito and Osamu Inamura
Uozu Aquarium, Sanga 1390, Uozu-shi, Toyama 937-0857, Japan

要約：郷川流域総合調査の淡水魚類調査においてトンボの幼虫が混獲され、6科14種を確認した。富山県の流水域を代表とする種が多いなか、オジロサナエの幼虫など、「レッドデータブックとやま2012」に掲載されている希少な種も確認された。

はじめに

富山県生物学会の郷川流域総合調査の一環として、郷川の魚類調査を行った際に捕獲した蜻蛉目の幼虫を報告する。なお、蜻蛉目を主な対象とした調査ではないため、幼虫のみの記録となった。

調査方法

2016年6月10日、6月27日、10月12日、10月19日に行った魚類調査時に、上市川河口（滑川市魚躬）から郷川上流の開谷橋の上流にある堰堤よりさらに250m上流（上市町黒川）までにある8ヶ所で定点調査を行った（郷川の魚類調査地点を参照）。採集は、網目4mmメッシュの手ダモを用い、採集した幼虫はその場で同定し、個体数の計数および写真撮影を行った。種不明のアカネ属は魚津水族館で飼育して羽化後に同定し、羽化に至らなかったものはアカネ属sp.とした。また、ダビドサナエ属のダビドサナエとクロサナエはオスの肛上片上の一對の突起物から同定できる（日本環境動物昆虫学会編，2010）が、メスでは同定が困難であるため、ここではダビドサナエ属として記録した。カワトンボ属は尾鰓の形で同定した（日本環境動物昆虫学会編，2010）。なお、魚類採集時に混獲された幼虫を記録の対象としたため成虫の記録は行っていない。分類および標準和名は、「日本のトンボ（尾園ら，2012）」に従った。また、

幼虫の同定には「改訂 トンボの調べ方（日本環境動物昆虫学会編，2010）」を参考とした。

結果と考察

今回確認された蜻蛉目の幼虫は6科14種508頭であった（表1）。定点1の河口では確認されず、その他の7つの定点で確認されたのは、コオニヤンマ、ダビドサナエ属、コヤマトンボで、6つの定点で確認されたのは、ハグロトンボ、コシボヤンマであった。これらの種の幼虫は郷川において広域に分布していると考えられた。ダビドサナエ属は、著者のひとりである不破が2015年4月24日に開谷橋で採集された個体を羽化させたところクロサナエであった。通常、クロサナエはダビドサナエよりも上流域で見られることが多く（二橋ら，2004）、下流側で採集された幼虫はダビドサナエの可能性も考えられる。

今回確認された種で「レッドデータブックとやま2012」に掲載されているのはニホンカワトンボ（準絶滅危惧）、オジロサナエ（絶滅危惧I類）、ミヤマサナエ（準絶滅危惧）、アキアカネ（情報不足）の3科4種であった。特に、絶滅危惧I類のオジロサナエの富山県の分布状況は、八尾町、細入村、大沢野町の旧3町村で記録があるのみで、県東部からは未記録であった（二橋ほか，2004）。また、他県では幼虫は比較的容易に見つ

表1 確認されたトンボ一覧

No.	科名	河川名 和名	上市川			郷川				計	RDB富山		
			定点1	定点2	定点3	定点4	定点5	定点6	定点7			定点8	
			伊達乃見橋	交観橋	赤浜橋	郷川橋	万常橋	上等寺橋	開谷橋			上流	
1		ニホンカワトンボ		8	1	6		6		27	48	準絶滅危惧	
2	カワトンボ科	ミヤマカワトンボ							1	15	16		
3		ハグロトンボ		35	25	23	18	6	1		108		
4	ヤンマ科	コシボソヤンマ			1	2	3	16	6	15	43		
5		ミルンヤンマ			1					3	4		
6	サナエトンボ科	コオニヤンマ		2	3	4	15	4	2	2	32		
7		ダビドサナエ属		4	1	2	11	11	5	26	60		
8		オジロサナエ					1				3	4	絶滅危惧Ⅰ類
9		ミヤマサナエ		1	3	6						10	
10		ヤマサナエ					6	3			9	準絶滅危惧	
11	オニヤンマ科	オニヤンマ					3	1	2	10	16		
12	ヤマトンボ科	コヤマトンボ		11	4	5	52	32	9	14	127		
13	トンボ科	アキアカネ			1	7		3			11	情報不足	
		アカネ属sp.					6		10		16		
14		シオカラトンボ		3		1					4		
計			0	64	40	63	108	92	26	115	508		

かるようであるが、本県では記録が極めて少なかった。今回の調査では、定点4（滑川市寺町）と定点8（上市町黒川）で幼虫が確認されたほか、著者らは2015年4月24日に定点7（上市町黒川）でオジロサナエの幼虫を4頭、5月20日同所で2頭採集している。また、2015年7月2日に定点5（上市町黒川）でヨシの枝上で羽化中のメス個体を確認しており（写真1）、郷川上流は安定した産地の可能性が高いと考えられる。

謝辞

取りまとめに当たりご指導いただいた産業総合研究所の二橋亮博士に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 尾園暁・川島逸郎・二橋亮. 2012. ネイチャーガイド 日本のトンボ, 532pp. 文一総合出版.
 二橋亮・二橋弘之・荒木克昌・根来尚. 2004. 富山県のトンボ, 220pp. 富山市科学文化センター収蔵資料目録 第17号.

- 富山県. 2012. 昆虫, 絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま2012—, 107—199. 富山県生活環境文化自然保護課.
 井上清・宮武頼夫. 2010. 改訂 トンボの調べ方, 49—105pp. 日本環境動物昆虫学会編. 株式会社文教出版.



2015年7月2日（撮影：齋藤真里）